

# GW 禅寺に身を置く

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com



歴史学者のユヴァル・ノア・ハラリ氏は著書『21世紀の人類のための21の思考21 Lessons』で、21番目の項目に瞑想を掲げ、「ひたすら観察せよ」と説いている。気持ちを落ち着かせることが重要で、人間性を失ってはならない。ひたすら心の内面を観察することの大切さを訴えている。  
(岡村信良)



## 静寂の空気、風と語らう

### 歴史刻む名刹 高峯山天寧寺

青梅市根ヶ布。成木街道を離れ、霞丘陵側へ向かうと、曹洞宗の名刹、高峯山天寧寺の一層清浄さを増し、丘陵を背景に木立に囲まれ、歴史を刻んできた七堂伽藍が迎える。



七堂伽藍とは、法堂、仏殿、山門、庫裡、僧堂(坐禅堂)、浴所(手洗所)を指す。堂塔の配置は典型的な曹洞宗のもの。都文化財に指定されている。寺伝によれば、

### 美しい七堂伽藍が迎える



この地の領主、三田弾正平政宗の帰依によって再興され、寺勢を盛り返した。曹洞宗の坐禅は「只管打坐」、ただひたすらに坐ることだ。坐禅をする姿そのものが仏の姿であり、悟りの姿。人は日常生活の中で自分勝手な欲望や物事の表面だけに振りまわされてしまいがちだ。だが、坐禅においては、

### 山寺の風情 黒澤山間修院

山寺の風情を醸す青梅市黒沢の曹洞宗黒澤山間修院。青梅多摩七福神の寿老人を祀る寺でもある。

寺子屋は玄溪学舎と名乗った。寺名は「聞思修」という仏教の言葉から付いた。仏法を聴聞し、自ら思惟し、仏道を実践修行するという理念が込められている。

積迦の十大弟子に阿難(あなん)がいる。積迦の侍が行われた。いわゆる積迦滅後、積迦の教えを記憶に留める作業

山号の黒澤山は、開基と地名から取った。また、「黒沢」は玄溪(真理の溪川)という意味があり、同院にあった



### 寺名は「聞思修」 仏教の言葉から

經典結集だ。参加資格であった阿羅漢果を得ていない阿難は死に物狂いで瞑想修行に励み、阿羅漢果に達した。晴れて参加した阿難は記憶に基づいて積迦の教えを口述し、經典が編纂された。漢訳經典の冒頭には「如是我聞」も通じる。



昔から寺院は様々な人が集まる場だった。人と人との出会いの場、いろいろな思いの発信の場でもありたいの思いから両寺では、坐禅の会、お経の会、ご詠歌の会をはじめコンサートなどのイベントが行われている。開修院では4月29日、不動明王祭禮「みどりのまつり」が開催される。11時〜大般若法要が、10時〜黒沢囃子、福引などが行われ、露店が並ぶ。当日は駐車場に限りがあり、公共交通の利用を呼びかけている。